

言者からビザンチン皇帝への手紙（上）

明: この手紙が書かれた背景と、その手紙の内容、そしてどのようにそれが受け取られたか。

目: [事イスラームの真実性を示す数々のムハンマドの言者性に](#)する

目: [事言者ムハンマド彼の言者性の](#)

より: Jeremy Boulter (2012 IslamReligion.com)

日 6 Apr 2012

集日 17 Oct 2022

この事の内容



この事の第一部では、第二部と第三部で読まれる二つの物の内容と背景を 紹介します。主な内容はアブ スフヤンブン ハルブからアブドゥッラ ブン アッバ スに 送られた、彼のエルサレムでのヘラクレイオスとの 面についてで、サヒ フ アル=ブハリ に 送られているも

のです。それに加えて、エルサレムの率イブンアン＝ナトゥルによる物もあります。これらの物でされた出来事によれば、ホムスの民へのヘラクレイオスによるイスラムへの招待は、アブスフヤンとエルサレムで会ったあとに起きたようです。

しかし同時に、アラビアに言者がれたとき、ヘラクレイオスがアブスフヤンを呼び寄せたのも明らかです。さらに、アブスフヤンがヘラクレイオスと会ったときには、ヘラクレイオスが言者からの手を持っていたというのもいりません。なので、ここではアン＝ナトゥルの物の中で、二つの所で起きた出来事をうエピソードとして分けてあります。最初はエルサレムでのヘラクレイオスとアブスフヤンの会合で、二つ目はヘラクレイオスがエルサレムを去ったのホムスです。アブスフヤンの物も二つに分けてあります。方の物とも、イブンアッバスによってえられたものです。

アブスフヤンブンハルブ

アブスフヤンは、最終的にはイスラムに改宗しましたが、言者の生前のほとんどの間は、イスラムに激しく反していました。彼はクライシュ族のウマイヤ家のも、クライシュ族全体のでもあり、言者の生前においては、マッカでもっとも力のある者の1人でした。彼の曾祖父がアブドゥッ＝シャムスブンアブドゥル＝マナフであり、彼の弟がハシム、つまり言者ムハンマドの曾祖父だったので、彼らはい兄弟どうしのだでした。アブスフヤンは力のために、言者ムハンマドを彼の力の威であり、クライシュ族の神々の端者と感じていたのです。アブスフヤンがをつとめるクライシュ族と初期のムスリムたちとの化し、ムスリムたちがマディナに移住したあとは数々のがあり、そのときクライシュにつきい、ウフドのい（625年）ではクライシュ族を率いたのが彼でした。

フダイビヤの条（628年）のあと、彼はシリア地方までキャラバンを率い、エルサレムのカエサルに招かれました。そして彼がマッカにろうとしているとき、言者ムハンマドとの条が、クライシュによって破られたのです。ムスリムが1年半前にばれたその条から解放されたと知り、彼は自分の足でマディナへ向かい、それをおうとしましたが、失しました。ムスリムは630年にマッカを攻めました。壁きをて、アブスフヤンはマ

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/401>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。